

四半期報告書

(第52期第1四半期)

株式会社 昭和システムエンジニアリング

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期財務諸表】	8
2 【その他】	11
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	12

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第52期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

【会社名】 株式会社 昭和システムエンジニアリング

【英訳名】 SHOWA SYSTEM ENGINEERING CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 尾崎 裕一

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号

【電話番号】 東京 (03) 3639-9051 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 八木 克己

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号

【電話番号】 東京 (03) 3639-9051 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 八木 克己

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第51期 第1四半期累計期間	第52期 第1四半期累計期間	第51期
	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	1,515,212	1,556,702	6,142,746
経常利益 (千円)	89,877	141,191	442,217
四半期(当期)純利益 (千円)	53,631	93,947	286,261
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	630,500	630,500	630,500
発行済株式総数 (株)	4,810,000	4,810,000	4,810,000
純資産額 (千円)	2,601,927	2,752,329	2,854,201
総資産額 (千円)	5,095,581	5,308,185	5,636,353
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	11.52	20.64	61.48
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	15.00
自己資本比率 (%)	51.1	51.9	50.6

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による景気対策を背景に所得・雇用環境の改善もあり、景況感は引続き緩やかな回復基調で推移しております。しかしながら世界経済は中国及びアジア新興国の経済成長減速懸念、欧米の政治経済施策に対する警戒感の高まり等、先行き不透明な状況が続いております。

一方、当社を取巻く情報サービス産業においては、市場が求める人材の確保及びフィンテックやIoT、ロボティクス、ビッグデータに代表されるデジタルビジネスの需要に対応する技術者の育成が重要な鍵となっており厳しい環境が続いております。

当社はこのような状況の中、ビジネスの選択と資源の集中を図り、更なる生産性の向上及び経費の削減等に努めてまいりました。

その結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高1,556百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益137百万円（前年同期比59.5%増）、経常利益141百万円（前年同期比57.1%増）、四半期純利益93百万円（前年同期比75.2%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① ソフトウェア開発事業

ソフトウェア開発事業は、売上高1,527百万円（前年同期比2.9%増）、売上総利益244百万円（前年同期比32.6%増）となりました。

② BPOエントリー事業

BPOエントリー事業（業務代行サービス）は、売上高28百万円（前年同期比5.0%減）、売上総損失0百万円（前年同期は売上総利益0百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

（流動資産）

当第1四半期会計期間末における流動資産は4,217百万円（前事業年度末比346百万円減少）となりました。主な要因は現金及び預金と売掛金が減少したことによります。

（固定資産）

当第1四半期会計期間末における固定資産は1,090百万円（同18百万円増加）となりました。主な要因は投資その他の資産のその他に含めた投資有価証券が増加したことによります。

その結果、当第1四半期会計期間末における資産合計は5,308百万円（同328百万円減少）となりました。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は669百万円(同240百万円減少)となりました。主な要因は未払法人税等及び賞与引当金が減少したことによります。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債は1,886百万円(同14百万円増加)となりました。これは退職給付引当金が増加したことによります。

その結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は2,555百万円(同226百万円減少)となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は2,752百万円(同101百万円減少)となりました。主な要因は四半期純利益93百万円による利益剰余金の増加があったものの、配当金の支払69百万円による利益剰余金の減少及び自己株式の取得139百万円によるものであります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,000,000
計	18,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	4,810,000	4,810,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,810,000	4,810,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	—	4,810,000	—	630,500	—	553,700

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 385,100	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,424,300	44,243	—
単元未満株式	普通株式 600	—	—
発行済株式総数	4,810,000	—	—
総株主の議決権	—	44,243	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式38株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社 昭和システムエンジニアリング	東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号	385,100	—	385,100	8.00
計	—	385,100	—	385,100	8.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、監査法人大手門会計事務所による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,690,075	3,412,714
売掛金	718,383	648,903
仕掛品	2,607	45,452
その他	153,002	110,768
流動資産合計	4,564,068	4,217,839
固定資産		
有形固定資産	187,939	185,118
無形固定資産	3,625	3,878
投資その他の資産		
繰延税金資産	543,428	541,973
その他	337,290	359,375
投資その他の資産合計	880,719	901,349
固定資産合計	1,072,284	1,090,346
資産合計	5,636,353	5,308,185
負債の部		
流動負債		
買掛金	232,567	212,413
短期借入金	10,000	10,000
未払法人税等	97,345	8,886
賞与引当金	343,027	137,081
その他	227,279	301,065
流動負債合計	910,220	669,446
固定負債		
役員退職慰労未払金	60,973	60,973
退職給付引当金	1,810,958	1,825,436
固定負債合計	1,871,931	1,886,409
負債合計	2,782,151	2,555,855
純資産の部		
株主資本		
資本金	630,500	630,500
資本剰余金	553,700	553,700
利益剰余金	1,885,717	1,909,824
自己株式	△61,168	△200,661
株主資本合計	3,008,749	2,893,362
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	24,831	38,345
土地再評価差額金	△179,378	△179,378
評価・換算差額等合計	△154,547	△141,033
純資産合計	2,854,201	2,752,329
負債純資産合計	5,636,353	5,308,185

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	1,515,212	1,556,702
売上原価	1,330,437	1,312,174
売上総利益	184,775	244,527
販売費及び一般管理費	98,339	106,655
営業利益	86,435	137,872
営業外収益		
受取利息	261	107
受取配当金	2,508	2,822
受取家賃	465	465
受取手数料	217	213
雑収入	3	—
営業外収益合計	3,456	3,608
営業外費用		
支払利息	14	10
自己株式取得費用	—	278
営業外費用合計	14	289
経常利益	89,877	141,191
税引前四半期純利益	89,877	141,191
法人税、住民税及び事業税	7,138	2,397
法人税等調整額	29,106	44,845
法人税等合計	36,245	47,243
四半期純利益	53,631	93,947

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	1,742千円	3,040千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月17日 定時株主総会	普通株式	79,154	17.00	平成28年3月31日	平成28年6月20日	利益剰余金

(注) 平成28年6月17日定時株主総会決議による1株当たり配当額には創立50周年記念配当5円を含んでおります。

2. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月16日 定時株主総会	普通株式	69,840	15.00	平成29年3月31日	平成29年6月19日	利益剰余金

2. 株主資本の著しい変動

当社は、平成29年5月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式231,200株の取得を行っております。この結果、当第1四半期累計期間において、自己株式が139,493千円増加し、当第1四半期会計期間末において自己株式が200,661千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア開発事業	BPOエントリー事業	
売上高	1,484,823	30,389	1,515,212
セグメント利益	184,653	122	184,775

(注) セグメント利益の合計は、四半期損益計算書の売上総利益と同額になっております。

II 当第1四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア開発事業	BPOエントリー事業	
売上高	1,527,834	28,868	1,556,702
セグメント利益又は セグメント損失(△)	244,905	△377	244,527

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)の合計は、四半期損益計算書の売上総利益と同額になっておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	11円52銭	20円64銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	53,631	93,947
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	53,631	93,947
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,656	4,552

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年8月9日

株式会社昭和システムエンジニアリング
取締役会 御中

監査法人大手門会計事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 向 井 真 悟 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 亀ヶ谷 顕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社昭和システムエンジニアリングの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第52期事業年度の第1四半期会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社昭和システムエンジニアリングの平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。